

杉山ゆきお後援会だより

第26号



杉山議員は 福生市長選挙 立候補予定者 加藤育男氏 を推薦します

杉山ゆきお後援会の皆様・支持者の皆様

私は、福生市長選挙に際し加藤育男立候補予定者を推薦いたします。

加藤市長は5月8日告示の福生市長選挙に3期目の立候補を表明されております。現在、福生市は、商工会館建替、防災食育センター建設、福生駅東口の開発などを進めておりますが、これらに加えて、昭和40年代に建設した施設の老朽化に伴い、改修などハード面での計画が待ったなしです。加えて福生駅の東口の再開発など市民と創り上げなければいけない課題が山積しています。ある意味、福生のまちづくりの大きな転換点ではないかと思っています。

こういう状況において、加藤市政の2期の実績は大きく評価されるべきだろうと思います。3期目は、この福生の転換期に、まちづくりのリーダーシップを取って頂かなくてはならないと思っています。私は、これからの福生のまちづくりに加藤市長と一緒に取り組んでいきますので、後援会の皆様には是非ともご理解を頂き、ご支援の輪を広げていただきたくお願いする次第です。

福生市議会議員 杉山行男

加藤育男後援会のリーフレットより転載

～このまちが好き 夢かなうまち 福生～

私は、平成20年5月からの2期8年間「このまちが好き 夢かなうまち 福生」の実現に向け、職務に邁進してまいりました。

1期目には「5つの元気」を、2期目には「7つのまちづくりの目標」を定め、子育て支援をはじめとする様々な定住化対策等を実施してまいりました。

その結果、日経デュアルと日本経済新聞社が実施した「自治体の子育て支援に関する調査」の結果で、共働き子育てしやすい街ランキング全国2位の評価をいただきました。

この結果に満足せず、子育て世代からお年寄りまで、幅広い世代の方々に「このまちに住みたい、住んで良かった」と思っていただけまちづくりを目指し、引き続きこの手で強く推し進めなくてはならないと考えております。

今後さらなる福生市の発展のため、全力投球いたします。



住んでよかった!住み続けたくなるまち 福生のために・・・7つのまちづくりの 目標を着実に進めていきます!

1. 希望に満ちた明るいひとづくり

子どもが健やかに成長する教育環境を整え、ともに、市民力向上のための学習環境を充実させ、地域を誇りに思う市民をはぐくみます。

- 英語教育 ● コミュニティ・スクール
- 通学路防犯カメラの設置 ● 特別支援教育の充実
- 中学校日本語学級 ● 古民家保存事業



2. だれにもやさしい安全なまちづくり

長期的な視点に立ち、人にやさしいまちづくりを進めると同時に、災害に強く、高齢者や障がい者を含む、すべての人にとって利便性の高い生活空間の充実をはかります。

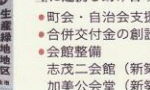
- 公共施設のバリアフリー化
- 防災食育センター (災害時対応施設)
- 消防ポンプ車更新 ● 災害対策の充実
- 東福生駅自転車駐車場の整備 (新築)
- 通学路見守り体制の整備 ● 牛浜駅自由通路整備



3. 潤いのある豊かなくらしづくり

ぬくもりとやさしさのある居住空間と快適な生活環境の形成に努め、自然環境を大切に思う心を守り伝えるまちを目指します。

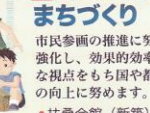
- 空き家対策 ● 公営住宅の整備
- 緑化推進、環境教育
- 緑地整備 ● 環境負荷低減策
- 下水道漏洩の長寿命化・耐震化
- 熊川分水保全 ● 緑地整備の例



4. 安心に満ちたまちづくり

子育てしやすい環境を整え、市民の健康増進を進めるとともに、ファミリーゼーション社会を築き、人とのつながりを大切にすまちづくりを進めます。

- 待機児童対策 ● 病児・病後児保育の充実
- 健康促進施策
- ファミリーサポートセンター事業 ● 子育て広場
- 子育て支援カード ● ひとり親家庭支援
- 高齢者元氣施策 ● 人権教育の推進
- 福生市地域包括支援センター熊川の開設



5. 活力とにぎわいのあるまちづくり

にぎわいのある商業空間の形成と地域産業の強化に努め、地域資源を活かした都市型観光を推進し、市内外の人々が行きかう交流環境の充実をはかります。

- 商工業振興 ● 起業・創業支援
- 中心市街地活性化 ● 観光支援 ● くるみふるっさ
- 福生ロゴケーションサービス ● 東京都住宅供給公社と協賛決定



6. ともに助け合うまちづくり

市民と行政のコミュニケーションを強化し、市民が自らまちづくりに参加するとともに、地域住民が相互に連携し助け合う環境を整備します。

- 町会、自治会支援
- 合併交付金の創設
- 会館整備
- 志茂二会館 (新築)
- 加美公会堂 (新築)
- 本八第一会館
- 陸会館
- 熊川会館



7. 市民と行政がともに進めるまちづくり

市民参画の推進に努め、自治力を高める行政運営を強化し、効果的効率的な行政運営を図り、広域的な視点をもち国や都との連携を強化し市民サービスの向上に努めます。

- 扶桑会館 (新築)
- もくせい会館 (新築)
- 輝き市民サポートセンター
- まちの魅力発信事業
- 新公会計制度の導入
- 市民活動の支援
- 市民出前講座の実施
- 市ホームページのリニューアル
- 市長への手紙
- 基地対策

【発足年月】 1974(昭和49年) 2月16日
【学歴・職歴】 1972(昭和47年)/私立桐蔭高等学校卒業
1976(昭和51年)/早稲田大学社会学部卒業
1976(昭和51年)/早稲田大学社会学部卒業
日本製糖株式会社
日本製糖株式会社
(現JFEスチール株式会社)入社
【職歴】 1981(昭和56年)/株式会社藤屋(株式会社藤屋)代表取締役入社
2003(平成15年)/福生市議会議員補選(2期5年)
2008(平成20年)/第5代福生市長就任
2012(平成24年)/福生市長(2期目)

加藤育男後援会で、一緒に「夢かなう福生」を創りましょう!
(会名) 本会は「加藤育男後援会」と称します。
(目的) 本会は、加藤育男の政治活動を支援し、福生に5つの元気を實現することを目的とします。
(会員) 本会は、その目的・主旨に賛同する方を会員とします。
(運営) 本会の運営にあたり若干名の役員を置き、別途事項より定めます。
加藤育男後援会事務所 〒197-0023 福生市志茂110番地
TEL.&FAX. 042-551-4930

市民の皆さんとのコミュニケーションは市政実現へのパワー源です!

▲市民体育大会ソフトボール競技にて ▲市民総合体育大会の様子 ▲大規模大会で挨拶

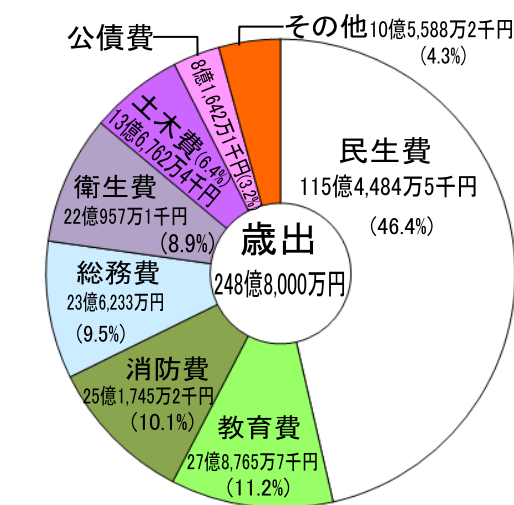
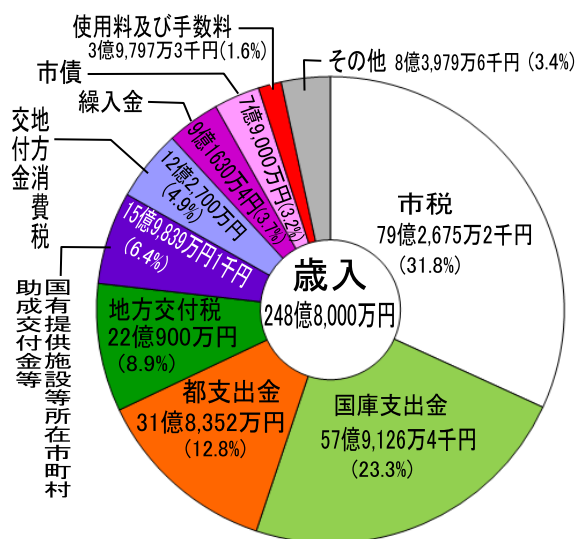
平成28年度福生市予算

一般会計予算 総額248億8千万円

福生市議会3月定例議会において、平成28年度の予算が可決成立しました。一般会計の予算総額は248億8千万円で、前年度に比べて9.4%の増と、過去最大規模の予算になりました。

予算の全体像は円グラフのとおりです。これを見ると、歳入面では、歳入総額に対する市税収入の割合が31.8%と、国や東京都からの交付金・補助金に依存する財政体質になっています。

歳出面では「臨時福祉給付金等」の支給で民生費4.5%増、都市計画道路3・4・7号富士見費が8.6%減額となっています。一方、杉山議員の指摘で議会費が6.0%減、新公会計関連システム導入委託料の皆減で総務費が8.6%減額となっています。



一般会計予算の前年度予算との増減比率

主な歳入	前年度比	主な歳出	前年度比
市税	0.2%	民生費	4.5%
国庫支出金	35.6%	衛生費	-1.5%
都支出金	1.7%	教育費	2.8%
地方交付税	-2.6%	総務費	8.6%
国有提供施設等交付金	-1.3%	土木費	16.9%
地方消費税交付金	25.3%	公債費	-1.5%
繰入金	40.1%	消防費	176.0%
市債	1.3%	議会費	-6.8%
歳入総額	9.4%	歳出総額	9.4%

平成28年度福生市一般会計予算案は、3月8日～11日の4日間にわたる「予算審査特別委員会」での慎重な審査を経て3月29日の本会議に上程され、採決前の討論で、杉山議員は「正和会」を代表して賛成討論を行いました。以下、杉山議員の賛成討論を全文掲載します。

一般会計予算賛成討論 杉山行男

平成28年度福生市一般会計予算につきまして正和会を代表して、賛成の立場から討論をさせていただきます。

長い間続いたデフレを脱却するためのアベノミクスの景気回復政策は、回復の兆しは見えてきておりますが、まだまだ実感として感じるほどではないということが共通の認識ではないかと思えます。しかし、市役所前の道路を通る交通量、とりわけ貨物輸送車、トラックの量は確実に増加

しており、経済全てを悲観的に見ることはないとおもっています。そのような中、平成28年度予算審査は全議員で4日間にわたる審査を行いました。福生市が導入した「新公会計制度（発生主義・複式簿記の会計処理）」による予算提案は事業ごとに提案され、市民に公開されても市の取り組みが分かりやすく、透明性が高まったと思えます。

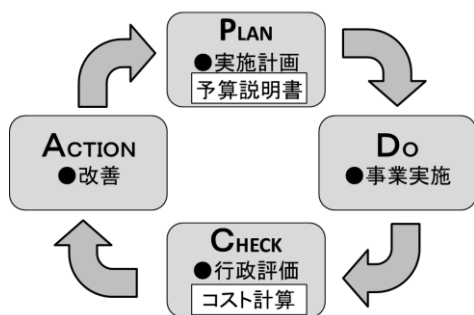
理事者（福生市）は248億8千万と過去最大規模の思い切った予算編成を行いました。今予算の歳入における市税は80億円に満たない状況で、歳入に占める割合は32%弱に過ぎず、多くは国・東京都からの補助金・交付金に依存しています。

以下、3ページ上段に続く

これを踏まえ、これまで積み立ててきた基金Ⅱ財政調整基金をはじめ、7つの基金の取り崩し総額9億1630万1千円、市債7億9千万円は、大規模事業を実施する今年度予算にあつては、十分に納得できる予算編成であると評価することができます。

歳出においては、民間保育所等振興費、外国人児童生徒就学支援事業、青少年海外派遣事業の3件を見直し、定住化対策についても102の事業予算を計上されました。なかでも、子育て広場事業961万2千円をはじめとする子供家庭部の子育てのための事業予算45億4064万1千円、また、教育環境の整備事業として、小学校特別支援教育振興、言語障害通級指導学級設置、中学校日本語級の設置等、教育費には27億8765万7千円、全予算の11.2%を計上したことは高く評価するところであります。防災食育センター整備事業16億1787万4千円をはじめ、もくせい会館建設事業、新扶桑会館整備事業など大型事業も計上され、そのための臨時財債対策債4億円の計上は評価できる金額であると思えます。さらに、臨時福祉給付金等給付事業、特定防衛施設周辺整備調整交付金Ⅱ9条交付金を全額積み立て、次への備えを考慮したことも評価できるものであります。総じて今予算は「子育てするなら福生！」の予算編成であると、高く評価するところであります。

新公会計制度のもとでのマネジメントサイクル



景気が回復基調にあるとはいえ、市政を取り巻く状況は決して楽観はできません。理事者には行財政改革推進はもちろん、市税等の歳入増額に努めていただき、平成28年度の予算執行にあたりましては、新公会計制度のもとでのマネジメントサイクル「PDCA」の実施等を通して、市民の皆様が福生に暮らしてよかつたと思っただけのような、行政運営、市民サービスに努めていただきますようお願いして、正和会を代表しての賛成討論と致します。

福生市が平成28年度から導入した「新公会計制度」では、「実施計画」を予算化されたすべての事業について作成する。また、決算の際の「事業別コスト計算書」も全事業について作成する。これにより、人件費や減価償却費等を含むフルコストが事業毎に明らかになり、原則、全ての事業における「費用対効果」が「見える化」されることになる。全事業が「見える化」されることにより、「C(評価)」がより浮彫になり、「A(改善)」の方向性が具体的に期待できる。

一般質問

3月定例議会において杉山議員は、以下の4項目について一般質問を行いました。紙面の都合により、1「ふるさと納税」とシティセールスについて「の質疑応答を紹介致します。

杉山議員の一般質問項目

- 1 ふるさと納税とシティセールスについて
- 2 もくせい会館建て替えに伴い不足する会議室について
- 3 熊川分水の保全について
- 4 ホームページのリニューアルについて

ふるさと納税 市の寄付金の状況と住民税の影響について

杉山◇ふるさと納税の返礼品の導入を進めていただきたいとの趣旨から質問する。福生市もふるさと納税寄付金を受け付けており、平成27年度の実績は328万7千463円と記載されている。については、今年の寄付金額の状況と使途について、併せて、寄付金額と住民税の控除額についても伺いたい。

市長◆寄付金の状況は2月末現在341万円、前年度との比較で約17%増である。改めて、ご寄付をいただいた皆様に御礼を申し上げる。ふるさと納税は平成20年度の税制改正により導入され、平成27年度税制簡素化が図られ、今後さらなるふるさと納税及び個人住民税における寄付金控除の

増加が見込まれると考えている。一方、返礼品競争が過熱していることから、各自治体は、ふるさと納税の返礼品等の扱いについて、総務大臣通達「寄付金が経済的利益の無償の供与であること、通常の寄付金控除に加えて特例控除が適用される制度であることを踏まえ、良識ある対応を行うこと」に沿って対応している。

商業振興の観点から返礼品の導入について

杉山◇私、杉山はふるさと納税の返礼品を導入すべきだと考えている。市長は12月議会と同僚議員の質問に対し「ふるさと納税の返礼品の導入」には消極的な答弁をされている。今、市長は総務大臣通達を引用して、「返礼品競争の過熱」を理由に「福生市は返礼品の導入をしない」とも受けとれる答弁をされた。しかし、総務大臣通達には「ふるさと納税の趣旨に反する返礼品(換金性の高いプリペイドカード、高額又は寄付額に対し返礼割合の高い返礼品)を送るような行為をしないこと」と書かれているだけで「返礼品を送るな」とは書かれていない。返礼品の導入について近隣市町村の状況をみると、既に、あきる野市、青梅市、立川市、八王子市、町田市、国分寺市、檜原村、奥多摩町で導入されている。インターネットの「ふるさと納税ポータルサイト」で福生市をクリックすると、

「福生市ではふるさと納税のお礼の品の用意はありません」と出てくる。これでは、福生市の印象が非常に悪いと感じるし、イメージダウンは避けられない。

福生市はシティセールス推進課を設けて、福生市の魅力を全国に発信してきた。その成果で「子育てしやすいまちランキング」で福生市が全国第2位になり、いまや「子育てするなら福生」はキャッチコピーにもなっているほど、好印象の福生市になっている。せっかく築き上げた好印象の福生市をイメージダウンさせないためにも、ふるさと納税の返礼品導入をするべきと思うが如何か？

現時点では返礼品の導入は困難

市長◆ふるさと納税の返礼品導入の実施にあたっては、事業としての有効性や財政的な収支にも配慮する必要がある、現時点では、返礼割合の上昇も懸念されるため、実施についての判断は難しいと考えている。また導入しないことによる福生市の印象やイメージについては「ふるさとを応援しよう」という制度本来の趣旨から考えると返礼品の導入の有無が、福生市のイメージに影響するとは考えにくい。

杉山◇返礼品競争の過熱で「返礼割合の上昇に懸念」と言われたが、どれくらいの割合なら妥当なのか、検討内容を伺いたい。

総務部長◆返礼品の返礼割合については、一部の自治体が導入を開始した平成20年から数年間は25%〜30%程度であったが、ふるさと納税の規模が拡大につれ、寄付金の獲得競争に伴う返礼品が高額化し50%以上の設定でなければ寄付金が集まりにくい状況にあると聞いている。福生市も事業者からヒアリングを行い、仮に導入した場合、返礼割合を50%とし、委託料や事務費を含めると68%の経費が必要との報告を受けている。

杉山◇理事者側の答弁を解釈すると、「返礼品の返戻率が過熱し、これからもっと過熱するだろうから、現時点での導入の判断は難しい。返戻率が高く費用対効果の観点から今は実施しない。つまり、頂いた寄付金に對して出費が大きすぎるからやらない」ということになる。

日本の良き慣習に「半返し」という言葉がある。マル得はなじまない。福生市の「返礼品の返戻率は半返しの50%」「返礼品競争には参加しない」との明確な基準を基に、福生市の優れた物産品(地酒・ハム・ケーキ、オリジナルシャツ等)を返礼品とする。また、特産品の発掘・開発も平行して行い、商工業の振興、地域事業者の雇用の確保などに弾みをつけるために、一刻でも早い「ふるさと納税の返礼品」の導入を、強く、強く、要望する。